

大津小便り

平成二十八年
NO.11
一月二十二日(金)
文責 吉良智恵美

今年も、みんなで頑張っています。

一月七日(木)に後期後半がスタートしてすでに、二週間の学校生活が過ぎました。スタートに当たり子どもたちに提案したことは、「無言で磨こう 校舎と心」です。「無言掃除」に取り組んで三年。子どもたちも真面目に頑張っています。「精いっぱい」「積極的に」「最後の一人まで」のレベルには到達出来ていません。

「言われず掃除」ではなく、「自分たちの学校と自分の内面を高める時間」として「掃除の時間」を意義ある時間にしてほしいという思いを伝えました。準備と後片付けを入れても二十分間ですが、この時間を、「誠実に」「集中して」掃除に向き合える子どもは、きっと、授業においても集中力を発揮できるはずだと考えます。教師も子どもも全員が、汗がでるほど集中して掃除に取り組む学校になりたいと思います。

研究開発学校フォーラム・・・東京

一月十三日(水)、東京の学術センターに、全国の研究開発学校三十七校が集まりました。指導要領の改訂について説明を受けたあと、指定四年目の新潟大学教育学部附属長岡校の研究報告を聞きました。この学校の新しい教科は「社会創造科」。総合的な学習に係る体系的な学習を、幼稚園から中学校までの系統化を図った内容でした。午後は、三年目の学校(十四校)のポスターセッション(一部屋に複数の学校が自分たちのブースを設置し、それぞれに資料等を提示しながら実践報告をします)を経て、最後は学校毎のヒアリングでした。昨年の中間発表会はもちろん、何度か本校の研究授業も見られており、特に

ホームページ、見てもらっていますか？随時、学校行事の様子など、情報を更新していきますので、そちらも見ていただくと有り難いです。

厳しい指摘はありませんでした。今後の課題として、題材と算数の内容との関連を細かく分析することが出されました。例えば、単元学習の直後に生活数理を行う場合としばらく習熟期間を置いた後で生活数理を行う場合との効果などです。評価については、笠井教科調査官の講演においても、本校研究の方向性を示して頂きましたが、二月十日に、学芸大学の西村先生と鹿児島大の山口先生に本校頂き、本校へのアドバイスを含めた講演をしてもらう予定です。課題はありますが、全職員で知恵を出し合いながら一つずつクリアしていくことを目指します。

先日、五年三組で郡市家庭科部会の研究授業がありました。「かしこい買い物」について、食パンの事例をもとに意見交換する子どもたちに、確かな生活数理の成果を見ることができました。

「委員会活動」報告会・十五日

十五日(金)に、今年の委員会活動報告会がありました。表や実物などを見せながら、委員会活動の成果や全校児童へお願いなどを発表しました。目標設定と振り返りが、来年度に向けた新しい委員会活動を生み出していきます。今年は、報告後の意見交換会もあり、低学年が積極的に質問していました。上級生と下級生のやり取りを聞きながら、何だかうれしい気持ちになりました。「学校を本当に安心して楽しく過ごせるようにしたいなら、みなさんが自分で考えて、意見を出して、行動することが大事です。そのための委員会活動です。大事にしていきましょう」という感想を述べて報告会は終わりました。

校内持久走大会・一月二十日(水)

ついに日本列島に真冬の寒波が訪れた今週の水曜日、校内持久走大会が実施されました。学年毎にコースを走り、終わったならそれぞれに教室に戻るという方法ですので、寒い運動場にずっと立ち続けるのは校長と教頭・・・ですが、それぞれの学年のドラマを見ながら感動を味わい、あつという間に終わりました。子どもさんの走る時間に合わせて保護者の皆さんがひっきりなしに来校され、ゴール付近では両側からの声援。子どもたちも、その声に励まされ、ラストスパートで自分のベストタイムに挑戦しました。交通委員さんをはじめご協力・ご応援ありがとうございました。



6年生、走る前のリラックス



ゴール。自己ベスト達成？

防災薪を設置しました・・・五年生

間伐材をみんなで運びました。全員で、すぐに完了。



体育館横に設置しました。「おおづ森の守り人」の皆さんの提案です。いざという時の備えは大切ですね。

